

2022年ヒラメ稚魚分布密度調査結果(太平洋)について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1999年から行っており、2022年は7月26日、8月24日、9月15日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いて三沢市沖8点で行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-27尾/1,000m²の範囲にありました(表1)。採集したヒラメの全長組成は、7月26日に水深5mで20-39mm、水深7mで20-49mm、8月24日に水深5mで50-109mm、水深7mで50-99mm、9月15日に水深5mで120-129mm、水深7mで40-119mmの範囲でした(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2022年は13(表1)で、1999年以降の平均値58を下回り、過去3番目に低い水準でした(図3)。

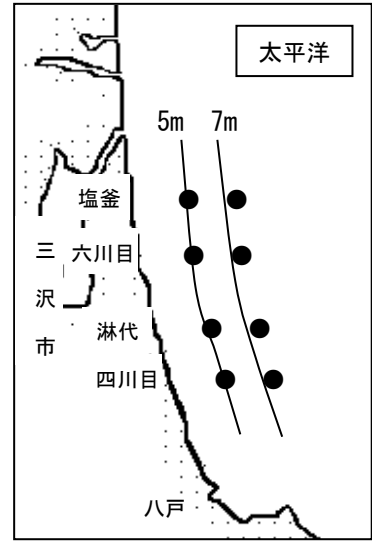


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7m				(個体/1,000m ²)	
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7m 平均
2022.7.26	3	11	16	21	6	6	13	27	13	13
2022.8.24	4	23	0	4	8	20	18	10	7	13
2022.9.15	0	3	0	3	0	3	0	7	2	2

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

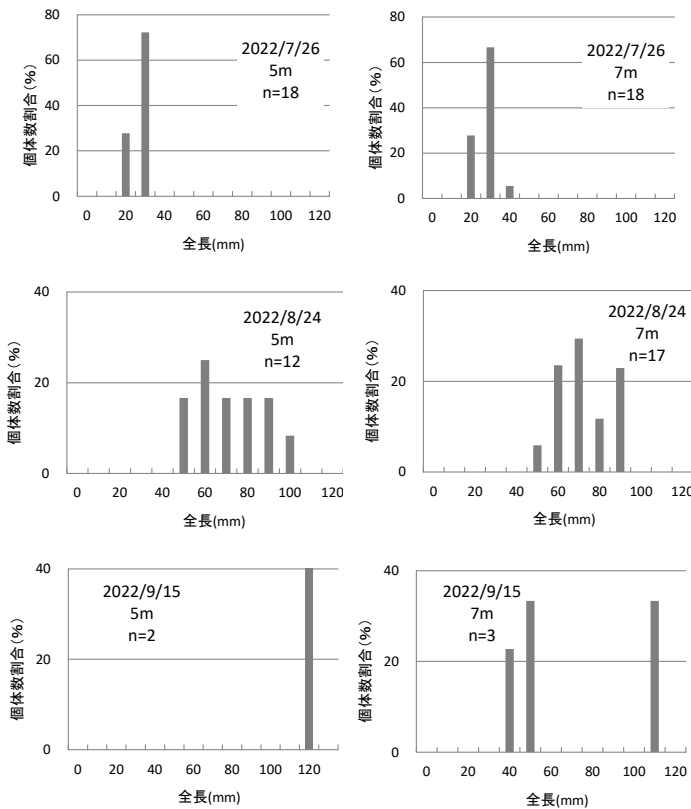


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

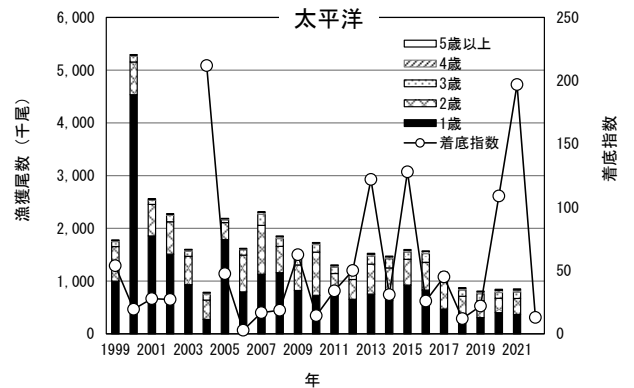


図3 太平洋のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移